

平成22年度 教育行政評価シート（自己評価）NO.1

事務事業名 (予算事業名)	家庭教育推進事業 (生涯学習推進事業)	作成日	H23.8.15
		担当部名	市民協働部
		担当課名	生涯学習課

1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	1 豊かな心と生きる力の育成
体系項目	(1) 乳幼児期の子育て支援の充実
個別施策	① 乳幼児期から一貫した相談支援体制の充実

2 事業概要 (Plan)

戦略目標	事業を実施する目標を記入してください。 幼児期における教育は、生涯にわたり人格形成の基礎を培う重要な時期であり、発達や学びの連続性を踏まえ、主体的な活動を引き出す環境に配慮して、まちづくりセンター等を会場に乳幼児を持つ保護者を対象にした「乳幼児期子育て講座」や「子育てサポートリーダー養成講座」を開設し、健やかな「鹿嶋っ子」に成長できる子育てを支援していきます。
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

重要成功要因	戦略目標を達成するための要因を記入してください。 ①委託者との事業カリキュラム等の協議 ②事業の市民への情報提供 ③アンケートの実施・次期事業内容の検討
--------	---------------------------------------------------------------------------------------

対象及び規模	事業の対象とその規模（数値）を記入してください。 対象 乳幼児を持つ保護者 規模 1200人
--------	---------------------------------------------------

予算科目コード	会計	01 款	10 項	05 目	01 事業名	生涯学習推進事業						
全体計画						21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
						(決算額：千円)	(決算額：千円)	(予算額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	
投入コスト	事業経費	乳幼児期子育て講座										
		子育てサポートリーダー養成講座										
		・講師・コーディネーター謝金					200	223	220	220	220	220
		・消耗品費					47	12	29	29	29	29
		・委託事務費					150	100	60	60	60	60
		・その他の経費					70	32	22	22	22	22
合計【1】						467	367	331	331	331	331	
財源内訳	国県支出金											
	地方債											
	その他(参加者負担金)											
	一般財源					467	367	331	331	331	331	
従事職員数	正規職員					0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	
	その他職員					0	0	0	0	0	0	

根拠法令	教育基本法第10条ほか
------	-------------

事業の性質	法定受託事務	自治事務(義務)	○	自治事務(任意)	○	市民サービス建設事業	管理経費その他	
事業期間	単年度	○	年度繰返し	期間限定	平成	年度から	平成	年度まで

国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	事業を取り巻く環境について記入してください。 教育基本法の改正により、家庭教育については第10条に「父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする」と規定され、国及び都道府県、市町村が家庭及び地域の教育力が向上するよう幼児期の子育て支援に努めています。
--------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 実績及び事業評価 (Check)

視点	評価項目	評価指標	評価指標根拠	判定
I 予算執行の視点 30%	【①コスト削減】 事業運営上、コスト削減の余地はあるか？ (民間委託、指定管理、他事業との統廃合、一般入札の導入、IT化、長期継続契約等)	A：コスト削減率10%以上 B：コスト削減率10%未満 C：コスト削減率 0%	事業内容を精査し、開催日数の短縮に努め、委託料が21%削減できました。	A
	【②費用対効果】 予算額に対し、事業以外の付加価値はあるか？(他市における同様の事業経費との比較、担当者一人あたりの経費など)	A：付加価値が予算額10%以上 B：付加価値が予算額10%未満 C：付加価値なし	乳幼児期子育て7講座、リーダー養成3講座の計10講座を実施。参加することにより、子育てに悩む相談や参加者相互に子育てへの理解を深める機会となりました。	A
	【③計画性】 計画的な事業実施が行われているか？(計画的な予算執行、事業実施計画などがあるか)	A：対計画実施率90%以上 B：対計画実施率80%~90%未満 C：対計画実施率80%未満	乳幼児期の子育て等の専門NPO法人に委託し、委託者との協議を経て事業を実施しました。	A
II 対象者の視点 30%	【④顧客満足度】 事業実施後、顧客ニーズを把握し、事業を実施しているか？(顧客満足度の結果、顧客満足度調査の実施頻度など)	A：顧客満足度80%以上 B：顧客満足度60%から80% C：顧客満足度60%未満	参加者(延べ321人)①乳幼児期子育て講座(延べ238人)②リーダー養成講座(延べ83人)参加者の意見から受講形態やプログラム内容について好評を得ました。	B
	【⑤コスト】 顧客一人あたりにかけるコストはどのくらいか？(顧客一人あたりが負担するコストはどのくらいか？→評価指標は逆転)	A：対昨年度比、10%以上高い B：対昨年度比、0%~10%未満 C：対昨年度比、安い	顧客一人あたりにかけるコストは約1.6%増加しました。	B
	【⑥時間】 顧客一人あたりにかける時間はどのくらいか？(顧客一人あたりが要する時間はどのくらいか？→評価指標は逆転)	A：対昨年度比削減率、10%以上 B：対昨年度比削減率、0%~10%未満 C：対昨年度比、増加	平成21年度は1回につき平均2時間の講座を15回実施、415人が参加。平成22年度は平均2時間の講座を10回実施、321人が参加。講座1回の時間に変化がないため、顧客一人にかかる時間に変化はありません。	B
III 事業実施過程の視点 30%	【⑦ニーズの把握】 事業を導入する際、ニーズの把握を行ったか？(市民参画の割合など)	A：市民参画率20%以上 B：市民参画率 0%~20%未満 C：市民参画なし	平成21年度参加者の意見・要望等を参考に委託者と協議し事業を実施しました。	A
	【⑧時間】 事業実施に伴う時間はどのくらいか？(打ち合わせ(会議)時間の短縮率(質の向上)、顧客の平均対応時間、情報の共有化など)	A：対昨年度比削減率、10%以上 B：対昨年度比削減率、0%~10%未満 C：対策年度比、増加	乳幼児期子育て講座を3回、リーダー養成講座を2回減らし、1講座ごとの内容を精選したため、事業に伴う時間を全体で30%削減しました。	A
	【⑨事業実施後の管理】 事業実施後の管理体制は確立しているか？(事業委託、民営化、市民参画団体への委譲後等の事業実施に対する管理体制)	A：管理体制確立、課題解決率10% B：管理体制確立、課題解決率0% C：管理体制確立せず	委託者側と事業後の打合せを実施し、随時、対応の検討を行いました。	A
IV 職員育成の視点 10%	【⑩業務改善】 業務の改善を行っているか？(業務の改善に関する提案件数の達成率、管理費(義務的経費は除く)のIT費用の割合など)	A：業務改善率、10%以上 B：業務改善率、0%~10%未満 C：業務改善なし	NPO法人と事前に前年度の反省をもとにプログラムの改善等に取り組みました。	A
	【⑪研修】 事業を効果的に行うために、研修を行っているか？(研修時間、組織内の研修受講割合など)	A：対昨年度比研修時間、10%増 B：対昨年度比研修時間、5%増 C：対昨年度比研修時間、増減なし	県主催の家庭教育推進事業に関する研修会へ担当者が参加し、「家庭教育ブック」の活用方法について理解を深めました。	C
	【⑫技能向上】 資格の取得など、実務的な技能が向上したか。(資格取得、知識の共有化や結合化件数など)	A：対昨年度比、3件増 B：対昨年度比、1件増 C：対昨年度比、増加なし	資格取得等はありません。担当者が自主的に家庭教育に関する知識の向上に努めています。	C

4 自己評価結果 (Action)

総合評価	Aを10点、Bを7点、Cを5点とし、それぞれの項目の結果の合計に視点毎の割合をかけ(最高30点)、上記IからIVの視点による事業評価に基づく総合評価を行う。	点数	26.3	A：合計点が24点以上 B：合計点が21点~23点 C：合計点が20点以下	総合評価結果	A
本評価に基づく事業の改善策	現状	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 NPO法人に委託し、まちづくりセンター等を会場に乳幼児を持つ保護者を対象にした「乳幼児期子育て講座」や「子育てサポートリーダー養成講座」を開設し、健やかな「鹿嶋っ子」に成長できる子育てを支援しています。乳幼児期子育て7講座、リーダー養成3講座の計10講座を実施し、参加することにより、子育てに悩む相談や参加者相互に子育てへの理解を深める機会となりました。参加者の意見から受講形態やプログラム内容について好評を得ました。 ※参加者延べ321人①乳幼児期子育て講座(延べ238人)②リーダー養成講座(延べ83人)				
	課題	現状認識を踏まえた課題について記入してください。 参加者からは、広報での子育て支援を集約した情報ネットでの情報の提供や親子が優先利用できる施設を多くして欲しいとの要望が寄せられました。				
	改善策	課題に対する改善策を、期限や具体的な数値などを記入してください。 事業の情報提供の手法を検討し、多くの皆さんが参加できる事業とするため、こども福祉課と連携し、恒常的に遊び・語り合う居場所確保の検討を行います。				

平成22年度 教育行政評価シート（自己評価）NO.2

事務事業名 (予算事業名)	読書活動の推進 (学校図書館経費(小学校), 小中学校教育設備及び教材費図書費)	作成日	H23.8.15
		担当部名	教育委員会
		担当課名	鹿嶋っ子育成課

1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画(後期)における位置づけ	
重点目標	1 豊かな心と生きる力の育成
体系項目	(2) 生きる力の育成
個別施策	③ 読書活動の充実

2 事業概要(Plan)

戦略目標	事業を実施する目標を記入してください。 子どもたちは、主体的・積極的に本を読むことで「言葉を学び・感性を磨き・表現力を高め・想像力を豊かに」していきます。すべての子どもが学校図書館で自主的に読書活動を行うことができるよう環境を整え、また、自ら興味を持って調べ学習にも取り組める環境づくりをします。
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

重要成功要因	戦略目標を達成するための要因を記入してください。 ①児童が本を読みだくなる空間の整備と本のスムーズな貸出 ②小学校に学校図書館司書を配置し、きめ細やかなレファレンスの実施 ③身近なところに多様な興味を引き出す本が沢山あり、読みたい本が探しやすい空間づくり ④児童(教師)にとって魅力ある図書を購入できる予算の確保
--------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

対象及び規模	事業の対象とその規模(数値)を記入してください。			
	対象	小学生	規模	3,857人

予算科目コード	会計	01 款	10 項	02 目	02 事業名	学校図書館経費(小学校)					
						21年度 (決算額:千円)	22年度 (決算額:千円)	23年度 (予算額:千円)	24年度 (計画額:千円)	25年度 (計画額:千円)	26年度 (計画額:千円)
投入コスト	全体計画										
	事業経費	報酬・共済費等	8,778	12,365	19,272	24,170	24,510	24,510			
		需用費(消耗, 印刷)	1,459	1,899	2,538	3,200	3,300	600			
		委託料・使用料及び賃借料・工事費	4,818	7,848	10,255	12,650	12,356	8,946			
		備品購入費(小中学校図書費含む)	15,934	16,517	18,312	14,975	15,455	8,275			
		合計【1】	30,989	38,629	50,377	54,995	55,621	42,331			
	財源内訳	国県支出金									
地方債											
その他 一般財源		30,989	38,629	50,377	54,995	55,621	42,331				
従事職員数	正規職員	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3				
	その他職員										

根拠法令	子どもの読書活動の推進に関する法律 学校図書館法
------	-----------------------------

事業の性質	法定受託事務	自治事務(義務)	○	自治事務(任意)		市民サービス	○	管理経費	
事業期間	単年度	○	年度繰返し		期間限定	平成19年度から	平成	年度まで	

国・県・他自治体の動向, 又は市民, その他の意見等	事業を取り巻く環境について記入してください。 平成19年度から新施策「新学校図書館図書整備5か年計画」がスタートし、文部科学省は、毎年200億円を財政措置することになりました。 また、平成20年度には、子ども読書活動の推進に関する基本的な計画(第二次)を策定しました。
----------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 実績及び事業評価 (Check)

視点	評価項目	評価指標	評価指標根拠	判定
I 予算 執行 の 視点 30 %	【①コスト削減】 事業運営上、コスト削減の余地はあるか？	A：コスト削減率10%以上 B：コスト削減率10%未満 C：コスト削減率 0%	学校図書館整備途中のため、臨時的経費がかかり、全体的な削減は困難です。整備には、ハード面の整備が一定しないため、コストが流動的です。	C
	【②予算措置率】 地方交付税に算入される図書購入費を予算化しているか（基準財政需要額）	A：予算化率100% B：予算化率80%以上100%未満 C：予算化率80%未満	地方交付税に算入される図書費12,921千円に対し、11,874千円の予算を配当し、予算化率は91.8%でした。	B
	【③計画性】 計画的な予算執行が行われていたか？	A：予算執行率98%以上 B：予算執行率90%～98%未満 C：予算執行率90%未満	計画的に執行を行いました。予算現額29,300千円に対し、予算執行額は28,807千円で、執行率は98.3%でした。図書費のみみると、99.5%の予算執行率で、予算を余すことなく執行しました。	A
II 対象 者の 視点 30 %	【④児童一人当たりへ貸出冊数】 児童ひとり一人が積極的に学校図書館を利用しているか？ *学校図書館実施校6校	A：年間貸出冊数 50冊以上 B：年間貸出冊数 30冊以上50冊未満 C：年間貸出冊数 30冊未満	学校図書館実施校6校の総貸出冊数は119,458冊、児童1人あたり年間平均52.9冊で、昨年度(59.1冊)比で減りました。年度途中で閉館した図書館があるため、減になったと思います。	A
	【⑤標準冊数】 標準冊数を満たしているか？また、児童・教師が読みたい本が揃っているか。	A：標準冊数85%以上 B：標準冊数70%以上85%未満 C：標準冊数70%未満	平成22年9月末現在、学校図書館図書標準冊数の充足率は小学校101.3%、中学校106.7%、全体で101.8%です。選書は司書教諭を中心とし、学校図書館ではリクエスト制度を設けているため、学校・児童両方のニーズを満たしていると思います。	A
	【⑥貸出時間】 児童がいつでも借りられる環境は整っているか。	A：すべての休み時間で借りられる B：昼休みのみ借りられる C：学年で借りられる曜日・時間が限定されている	学校図書館整備校はシステム導入により、待ち時間も少なくスムーズに貸出ができませんが、未実施校ではカード方式なので時間がかかり、格差が出ています。	B
III 事業 実施 過程 の 視点 30 %	【⑦学校図書館整備率】 各小学校の学校図書館を整備し専任司書の配置及び図書のデータベース化等を行っているか？	A：学校図書館整備率90%以上 B：学校図書館整備率50～90%未満 C：学校図書館整備率50%未満	小学校12校中6校を整備し、整備率は50%です。平成25年度までには全小学校整備予定です。未実施校については、図書資料をすぐデータベース化できるように整備の統一をしました。	B
	【⑧学校図書館整備計画】 市独自の学校図書館整備計画を策定し、計画的に事業が進められているか。	A：策定済み B：策定予定 C：未定	学校図書館整備計画(案)を作成し、平成23年度には策定予定です。	B
	【⑨司書教諭配置率】 学校図書館法第5条に基づき、12学級以上の学校に司書教諭を配置しているか？	A：司書教諭配置率100% B：司書教諭配置率90%以上100%未満 C：司書教諭配置率90%未満	法律で規定されている12学級以上の小学校8校に司書教諭を配置しています。中学校は全校5校に配置しています。	A
IV 職員 育成 の 視点 10 %	【⑩図書館活用状況】 調べ学習やブックトークなど学校図書館を積極的に利用しているか？ *学校図書館実施校(12校中6校)	A：全ての学年が授業等で利用している B：一部の学年のみのが授業等で利用している。 C：授業での利用はない	学校図書館でレファレンス室を利用した調べ学習、司書等による本の紹介など学校図書館を利用しやすくなる環境作りをしています。	B
	【⑪図書資料目録の作成】 教科用図書に沿った図書資料目録を作成し、図書館が授業で利用しやすい環境となっているか？*学校図書館実施校中(12校中6校)	A：図書目録作成率90%以上 B：図書目録作成率60%以上90%未満 C：図書目録作成率61%未満	学校図書館実施校6校全ての学校で作成し、教師に情報提供しています。	A
	【⑫研修】 専任司書のスキルアップに必要な研修や情報交換を実施しているか？(研修時間、組織内の研修受講割合など)	A：対昨年度比研修時間、増 B：対昨年度比研修時間、増減無 C：新年度実施に向け、調整中	講師を招いての研修会2回を行いました。情報交換は、メールや定期的な意見交換会で行いました。	A

4 自己評価結果 (Action)

総合評価	Aを10点、Bを7点、Cを5点とし、それぞれの項目の結果の合計に視点毎の割合をかけ(最高30点)、上記IからIVの視点による事業評価に基づく総合評価を行う。	点数	24.6	A：合計点が24点以上 B：合計点が21点～23点 C：合計点が20点以下	総合評価結果	A
本評価に基づく事業の改善策	現状	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 中野東小・平井小学校の学校図書館開館時には、図書館中が児童であふれ、カウンターに長い行列ができました。開館2年目以降の学校(4校)については、一人当たりの貸出冊数が、71.1冊(平成21年度59.1冊)で大幅に増加しました。平成19年度から波野小に始まり、平成22年度までに6校の整備が終了。残る6校も随時整備を進めます。【平成22年度整備校 中野東小学校 平井小学校】				
	課題	現状認識を踏まえた課題について記入してください。 学校図書館整備校と未整備校で読書環境に差が出ています。また、学校図書館を整備した学校では、いかに継続して児童に興味を持ってもらうか、魅力的な図書館を作るか、日々悩み・模索しています。				
	改善策	課題に対する改善策を、期限や具体的な数値などを記入してください。 計画的に全小学校の学校図書館の整備を行います。また、学校図書館の活用方法・学校図書館司書の育成について、学校・司書教諭・中央図書館等関係機関と連携し、研修や情報交換の場を設けて方策を見出ししていきます。				

平成22年度 教育行政評価シート（自己評価）NO.3

事務事業名 (予算事業名)	フロンティア・アドベンチャー事業 (青少年育成対策経費)	作成日	H23.8.15
		担当部名	市民協働部
		担当課名	生涯学習課

1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	1 豊かな心と生きる力の育成
体系項目	(2) 生きる力の形成
個別施策	④ 体験活動の充実

2 事業概要 (Plan)

戦略目標	事業を実施する目標を記入してください。 青少年の心の豊かさやたくましさを育みながら、生きる力や忍耐力・自立心・協調性を養うために、福島県国立那須甲子青少年自然の家(キャンプ場中心)にて、小学校5年生及び6年生を対象に10泊11日の長期の自然体験活動を実施しています。
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

重要成功要因	戦略目標を達成するための要因を記入してください。 ①現地視察、カリキュラムの検討 ②実行委員会の立ち上げ ③指導者確保及び研修会の実施 ④保護者アンケートの実施及び分析、体験記発行
--------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------

対象及び規模	事業の対象とその規模（数値）を記入してください。 対象 小学校5年生及び6年生 規模 70人
--------	---------------------------------------------------

予算科目コード	会計	01 款	10 項	05 目	03 事業名	青少年育成対策経費							
全体計画						21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度		
						(決算額：千円)	(決算額：千円)	(予算額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)		
投入コスト	事業経費	原材料費(食材・薪等)					1,788	1,692	1,212	1,212	1,212	1,212	
		報償費(指導者等謝金)					1,117	1,054	766	766	766	766	
		使用料及び賃借料(バス借上等)					382	323	223	223	223	223	
		体験記印刷製本費ほか					456	415	287	287	287	287	
		消耗品費					137	390	319	319	319	319	
		医薬材料費					82	82	64	64	64	64	
		その他					438	444	319	319	319	319	
		合計【1】					4,400	4,400	3,190	3,190	3,190	3,190	
		財源内訳	国県支出金										
			地方債										
その他(参加者負担金)					2,100	2,100	1,120	1,120	1,120	1,120			
		一般財源					2,300	2,300	2,070	2,070	2,070		
従事職員数		正規職員					0.2	0.2	0.2	0.2	0.2		
		その他職員					0.05	0.05	0.05	0.05	0.05		

根拠法令	
------	--

事業の性質	法定受託事務	自治事務(義務)	○	自治事務(任意)	○	市民サービス建設事業	管理経費その他	
事業期間	単年度	○	年度繰返し	期間限定	平成	年度から	平成	年度まで

国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	事業を取り巻く環境について記入してください。 文部科学省では、教育再生会議二次報告(2007)を受け、小学校で1週間の長期集団体験活動事業を学校教育における取り組みとして進めています。
--------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------

3 実績及び事業評価 (Check)

視点	評価項目	評価指標	評価指標根拠	判定
Ⅰ 予算 執行 の 視点 30 %	【①コスト削減】 事業運営上、コスト削減の余地はあるか？ (民間委託、指定管理、他事業との統廃合、 一般入札の導入、IT化、長期継続契約等)	A：コスト削減率10%以上 B：コスト削減率10%未満 C：コスト削減率 0%	市の委託費と参加者負担金で運営しま すが、平成15年度から負担金は同額で す。物価の変動もある中、全体事業費 の中で調整を行い実施しました。	C
	【②費用対効果】 予算額に対し、事業以外の付加価値はある か？(他市における同様の事業経費との比 較、担当者一人あたりの経費など)	A：付加価値が予算額10%以上 B：付加価値が予算額10%未満 C：付加価値なし	事後アンケートにより、参加した 児童の80%から変化があったと の回答を得ています。	A
	【③計画性】 計画的な事業実施が行われているか？(計画 的な予算執行、事業実施計画などがあるか)	A：対計画実施率90%以上 B：対計画実施率80%～90%未満 C：対計画実施率80%未満	事前視察を行い、現地の状況を確認 し、全体事業費を踏まえた中で プログラムを作成しました。	A
Ⅱ 対象 者の 視点 30 %	【④顧客満足度】 事業実施後、顧客ニーズを把握し、事業を 実施しているか？(顧客満足度の結果、顧客満 足度調査の実施頻度など)	A：顧客満足度80%以上 B：顧客満足度60%から80% C：顧客満足度60%未満	事後アンケートにより、費用負担面や 児童の変化があったこと、さらにその 後の学校での児童について良い変化が 表れたと報告を受けています。	A
	【⑤コスト】 顧客一人あたりにかけるコストはどのくらい か？(顧客一人あたりが負担するコストはど のくらいか？→評価指標は逆転)	A：対昨年度比、10%以上高い B：対昨年度比、0%～10%未満 C：対昨年度比、安い	宿泊期間・参加者等の変更がない ため、変化はありません。	B
	【⑥時間】 顧客一人あたりにかける時間はどのくらい か？(顧客一人あたりが要する時間はどのく らいか？→評価指標は逆転)	A：対昨年度比削減率、10%以上 B：対昨年度比削減率、0%～10%未 満 C：対昨年度比、増加	宿泊期間の変更がないため変化は ありません。	B
Ⅲ 事業 実施 過程 の 視点 30 %	【⑦ニーズの把握】 事業を導入する際、ニーズの把握を行った か？(市民参画の割合など)	A：市民参画率20%以上 B：市民参画率 0%～20%未満 C：市民参画なし	事業実施後、参加した児童の保護 者へアンケートを実施しました。 また、過去の応募者数から事業の 実施の決定を行っています。	A
	【⑧時間】 事業実施に伴う時間はどのくらいか？(打ち 合わせ(会議)時間の短縮率(質の向上)、 顧客の平均対応時間、情報の共有化など)	A：対昨年度比削減率、10%以上 B：対昨年度比削減率、0%～10%未 満 C：対策年度比、増加	本事業は、児童が安全・安心に活動 できることを第一に考慮し、事前視 察から綿密な打ち合わせが必要であ り、時間の削減に至っていません。	B
	【⑨事業実施後の管理】 事業実施後の管理体制は確立しているか？ (事業委託、民営化、市民参画団体への委譲 後等の事業実施に対する管理体制)	A：管理体制確立、課題解決率10% B：管理体制確立、課題解決率0% C：管理体制確立せず	実行委員会を組織し、事業実施後 も事業の課題・反省を各担当班別 に総括し、次期事業へ活かしてい ます。	A
Ⅳ 職 員 育 成 の 視点 10 %	【⑩業務改善】 業務の改善を行っているか？(業務の改善に 関する提案件数の達成率、管理費(義務的経 費は除く)のIT費用の割合など)	A：業務改善率、10%以上 B：業務改善率、0%～10%未満 C：業務改善なし	昨年の課題や反省を踏まえ、効率 的な会議、事業プログラムの検討 等を行いました。	B
	【⑪研修】 事業を効果的に行うために、研修を行って いるか？(研修時間、組織内の研修受講割合な ど)	A：対昨年度比研修時間、10%増 B：対昨年度比研修時間、 5%増 C：対昨年度比研修時間、増減なし	事前研修は指導者1回、サブ(高校 生)は2回実施しました。さらに事 後研修として課題・反省を含め1 回実施しました。	C
	【⑫技能向上】 資格の取得など、実務的な技能が向上した か。(資格取得、知識の共有化や結合化件数 など)	A：対昨年度比、3件増 B：対昨年度比、1件増 C：対昨年度比、増加なし	資格の取得等はありません。担当 者が自主的に青少年の体験活動に 関する知識の向上に努めていま す。	C

4 自己評価結果 (Action)

総合 評価	Aを10点、Bを7点、Cを5点とし、それ ぞれの項目の結果の合計に視点毎の割合を かけ(最高30点)、上記ⅠからⅣの視点に よる事業評価に基づく総合評価を行う。	点数	24.5	A：合計点が24点以上 B：合計点が21点～23点 C：合計点が20点以下	総合評価結果	A
本 評価 に 基 づ く 事 業 の 改 善 策	現状	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 青少年の心の豊かさやたくましさを育みながら、生きる力や忍耐力、自立心、協調性を養うために 実施している本事業は、市の重点事業として位置づけ、福島県国立那須甲子青少年自然の家(キャン プ場)にて小学校5年生及び6年生を対象に1泊11日の長期の自然体験活動を実施しました。毎年、 定員70名に対して110名前後の応募があり、保護者及び児童から高い評価を受けている事業です。				
	課題	現状認識を踏まえた課題について記入してください。 指導者の多くは市内各小学校の教諭であり、平成22年度は、学生・青少年育成団体関係者へも指 導者の参加協力を依頼しました。引き続き一般指導者の拡充が課題です。				
	改善策	課題に対する改善策を、期限や具体的な数値などを記入してください。 参加した児童保護者へのアンケート調査を行い、実行委員会にて事業実施後の事業の課題・反省点 を各担当班別に総括し、次期事業へ活かしています。 本事業の参加者は、小学校5年生及び6年生であり、市内各小学校教諭の役割は重要です。また、 一般指導者の拡充は、教諭の負担を軽減することにもつながり、継続した事業展開のためには青少年 育成団体との連携がますます重要となります。今後も引き続き、各団体からの指導者協力について協 議を進めていきます。				

平成22年度 教育行政評価シート（自己評価）NO.4

事務事業名 (予算事業名)	小学4年生宿泊学習事業 (小学校教育研究費)	作成日	H23.8.15
		担当課	教育委員会
		課名	鹿嶋っ子育成課

1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	1 豊かな心と生きる力の育成
体系項目	(2) 生きる力の育成
個別施策	④ 体験学習の充実

2 事業概要 (Plan)

戦略目標	事業を実施する目標を記入してください。 小学校4年生において宿泊学習を実施し、児童相互のコミュニケーションや自立心・協調・問題解決力等、様々な面での精神的成長を図ります。
------	----------------------------------------------------------------------------------------------

重要成功要因	戦略目標を達成するための要因を記入してください。 ①宿泊学習・自然体験により、小学校4年生の心身の成長促進 ②宿泊学習経費を教育委員会が予算計上することによる保護者の経済的負担の軽減
--------	---------------------------------------------------------------------------------------------------

対象及び規模	事業の対象とその規模（数値）を記入してください。			
	対象	小学校4年生	規模	631人

予算科目コード		会計	01 款	10 項	02 目	02 事業名 小学校教育研究費					
		全体計画			21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
					(決算額：千円)	(決算額：千円)	(予算額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	
投入コスト	事業経費	消耗品費			107	266	212	212	212	212	
		食糧費			1,545	1,614	1,502	1,502	1,502	1,502	
		宿泊費(会場借上料)			126	169	169	169	169	169	
		自動車借上料			1,080	1,080	1,080	1,080	1,080	1,080	
		合計【1】			2,858	3,129	2,963	2,963	2,963	2,963	
	財源内訳	国県支出金									
	地方債										
	その他										
	一般財源			2,858	3,129	2,963	2,963	2,963	2,963		
従事職員数	正規職員			0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2		
	その他職員										

根拠法令	法的な根拠はありません。
------	--------------

事業の性質	法定受託事務	自治事務(義務)	○	自治事務(任意)		市民サービス		管理経費
事業期間	単年度	○	年度繰返し		期間限定	平成 年度から	○	平成 年度まで

国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	事業を取り巻く環境について記入してください。 小学校4年生(10歳)時に宿泊学習を通して自立心等を育むことは、児童の健全育成のため非常に効果的であると考えます。 また、経済情勢の好転が進まない中、保護者の負担軽減のため、経費(宿泊費、食糧費、バス等使用料、消耗品費)の全額を市が負担して事業を実施しています。
--------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 実績及び事業評価 (Check)

視点	評価項目	評価指標	評価指標根拠	判定
I 予算執行の視点 30%	【①コスト削減】 事業運営上、コスト削減の余地はあるか？ (民間委託、指定管理、他事業との統廃合、一般入札の導入、IT化、長期継続契約等)	A：コスト削減率10%以上 B：コスト削減率10%未満 C：コスト削減率 0%	宿泊地は、茨城県立白浜少年自然の家を中心に利用するので、施設使用料等の費用は、安価におさえることができました。	A
	【②費用対効果】 予算額に対し、事業以外の付加価値はあるか？(他市における同様の事業経費との比較、担当者一人あたりの経費など)	A：付加価値が予算額10%以上 B：付加価値が予算額10%未満 C：付加価値なし	学校からの聞きとりにより、自然体験、また親元を離れた宿泊によって、児童の心身の成長を促進する効果があると判断します。	A
	【③計画性】 計画的な事業実施が行われているか？(計画的な予算執行、事業実施計画などがあるか)	A：対計画実施率90%以上 B：対計画実施率80%～90%未満 C：対計画実施率80%未満	各学校では、予算・実施計画ともに予定どおり実施しました。	A
	【④顧客満足度】 事業実施後、保護者のニーズを把握し、事業を実施しているか？	A：顧客満足度80%以上 B：顧客満足度60%から80% C：顧客満足度60%未満	具体的な調査は行なっていませんが、経費全額を市が負担するという点では、保護者満足度は高いと判断します。	A
II 対象者の視点 30%	【⑤コスト】 児童一人あたりにかけるコストはどのくらいか？	A：対昨年度比、10%以上高い B：対昨年度比、0%～10%未満 C：対昨年度比、安い	前年対比 3%高くなっています。	B
	【⑥時間】 児童一人あたりにかける時間はどのくらいか？(児童一人あたりが要する時間はどのくらいか？)	A：対昨年度比増加率、10%以上 B：対昨年度比増加率、0%～10%未満 C：対昨年度比、削減	前年度同様、各校とも1泊2日の行程で実施しましたので、変化はありません。	B
	【⑦ニーズの把握】 事業を導入する際、ニーズの把握を行ったか？(市民参画の割合など)	A：市民参画率20%以上 B：市民参画率 0%～20%未満 C：市民参画なし	具体的なニーズ調査は行っていませんが、保護者の経済的負担の軽減と、子どもの成長への効果が期待できることから、事業実施を判断しています。	C
III 事業実施過程の視点 30%	【⑧時間】 事業実施に伴う時間はどのくらいか？(打ち合わせ(会議)時間の短縮率(質の向上)、顧客の平均対応時間、情報の共有化など)	A：対昨年度比削減率、10%以上 B：対昨年度比削減率、0%～10%未満 C：対昨年度比、増加	各学校においては、宿泊施設などの打ち合わせを行いました。	B
	【⑨事業実施後の管理】 事業実施後の管理体制は確立しているか？(事業委託、民営化、市民参画団体への委譲後等の事業実施に対する管理体制)	A：管理体制確立、課題解決率10% B：管理体制確立、課題解決率0% C：管理体制確立せず	各学校は教育活動充実のため、教育委員会は費用について施設との打ち合わせを行いました。	A
IV 職員育成の視点 10%	【⑩業務改善】 業務の改善を行っているか？(業務の改善に関する提案件数の達成率、管理費(義務的経費は除く)のIT費用の割合など)	A：業務改善率、10%以上 B：業務改善率、0%～10%未満 C：業務改善なし	実施後に速やかに支払いをするために、各学校との連絡を随時行いました。	B
	【⑪研修】 事業を効果的に行うために、研修を行っているか？(研修時間、組織内の研修受講割合など)	A：対昨年度比研修時間、10%増 B：対昨年度比研修時間、5%増 C：対昨年度比研修時間、増減なし	年度始めには、他事業を含めた予算説明会を各学校に対して行いました。	C
	【⑫技能向上】 資格の取得など、実務的な技能が向上したか。	A：対昨年度比、増 B：対昨年度比、微増 C：対昨年度比、増加なし	学校・施設との打ち合わせを行い、事務処理の情報共有を図ることができました。	C

4 自己評価結果 (Action)

総合評価	Aを10点、Bを7点、Cを5点とし、それぞれの項目の結果の合計に視点毎の割合をかけ(最高30点)、上記IからIVの視点による事業評価に基づく総合評価を行う。	点数	24.5	A：合計点が24点以上 B：合計点が21点～23点 C：合計点が20点以下	総合評価結果	A
本評価に基づく事業の改善策	現状	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 児童への効果を検証するためのアンケート調査は実施できませんでしたが、学校へ聞き取りを行い、本事業を実施することにより、実施前と実施後の児童には、落ち着きが出てきたり掃除などもよくやるようになる等の変化が見られ一定の効果をあげていると判断できます。併せて、費用の全額を市が負担することで保護者の経済的負担の軽減が図られています。				
	課題	現状認識を踏まえた課題について記入してください。 学校とのヒアリングでは、宿泊学習の効果については一定の評価が得られていますが、これらを具体的に検証し今後の事業を進めていきます。				
	改善策	課題に対する改善策を、期限や具体的な数値などを記入してください。 学校並びに指導主事の助言をもらいながら、教育委員会としての意見をまとめ各学校へ周知をし、より良い事業実施となるように学校と検討していきます。また、アンケート実施に向け学校と調整します。				

平成22年度 教育行政評価シート（自己評価）NO.5

事務事業名 (予算事業名)	ウィンターチャレンジ事業 (まちづくり市民センター活動費)	作成日	H23.8.15
		担当部名	市民協働部
		担当課名	まちづくり市民センター

1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	1 豊かな心と生きる力の育成
体系項目	(2) 生きる力の育成
個別施策	④ 体験活動の充実

2 事業概要 (Plan)

戦略目標	事業を実施する目標を記入してください。
	雪深い福島県内のスキー場を訪れ、スキー体験、スノーシュー体験、かまくら作りなどの体験学習を通して、子どもの自立心や協調性、忍耐力などを養い、生きる力と豊かな心を育みます。

重要成功要因	戦略目標を達成するための要因を記入してください。
	①事前準備と宿泊先（指導者）との綿密な協議
	②事業の安全な実施に向け参加スタッフの情報共有
	③参加対象者に対し事前研修及び活動報告会への参加
	④学校や保護者との連絡体制

対象及び規模	事業の対象とその規模（数値）を記入してください。		
	対象	市内小学校5・6年生	規模

予算科目コード	会計	01 款	02 項	01 目	14 事業名	ウィンターチャレンジ事業					
全体計画						21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
						(決算額：千円)	(決算額：千円)	(予算額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)
投入コスト	事業経費	委託金（鹿嶋市事業費）					616	616	616	616	616
		負担金（鹿嶋市事業費）		499	709						
		負担金（体育協会事業費）		300	300	300	300	300	300	300	300
		参加費（賃借料・旅費等）		510	510	510	510	510	510	510	510
		合計【1】		1,309	1,519	1,426	1,426	1,426	1,426	1,426	1,426
財源内訳	国県支出金										
	地方債										
	その他		810	810	810	810	810	810	810	810	
	一般財源		499	709	616	616	616	616	616	616	
従事職員数	正規職員		0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	
	その他職員										

根拠法令	
------	--

事業の性質	法定受託事務	自治事務（義務）	○	自治事務（任意）	○	市民サービス建設事業	管理経費その他
事業期間	単年度	○	年度繰返し		期間限定	平成 年度から	平成 年度まで

国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	事業を取り巻く環境について記入してください。
	鹿嶋市では、市内小学高学年を対象に、福島県那須甲子の雄大な自然の中で、10泊11日間のキャンプ生活を行っています。このキャンプでの生活は、限られた装備での炊さんなどを行うことで、限られた時間内で火おこしから調理までの体験を通じ、普段あたり前の生活が、とてもありがたいものだと感じることが出来ます。また、さまざまな原生活での体験経験をつうじて、教育の大きな目標の一つとして掲げられている「自己表現力」を向上させ、自分の気持ちや思いを言葉や表情に表わし相手に伝えることができるようになった、紀律のある集団生活で自立心が向上したなどと高い評価を得ています。このように、体験学習から得られる貴重な経験は、人により様々ではありますが、今後の生活においてプラス効果となって表れると思います。

3 実績及び事業評価 (Check)

視点	評価項目	評価指標	評価指標根拠	判定
I 予算執行の視点 30%	【①コスト削減】 事業運営上、コスト削減の余地はあるか？ (民間委託、指定管理、他事業との統廃合、一般入札の導入、IT化、長期継続契約等)	A：コスト削減率10%以上 B：コスト削減率10%未満 C：コスト削減率 0%	参加者30人の団体行動を安全に遂行するためには、班別の編成が必要となるため、コスト削減には至りません。	C
	【②費用対効果】 予算額に対し、事業以外の付加価値はあるか？(他市における同様の事業経費との比較、担当者一人あたりの経費など)	A：付加価値が予算額10%以上 B：付加価値が予算額10%未満 C：付加価値なし	現地における指導者や小学生との交流ができたことで、相互交流の機会を話し合うことができました。	A
	【③計画性】 計画的な事業実施が行われているか？(計画的な予算執行、事業実施計画などがあるか)	A：対計画実施率90%以上 B：対計画実施率80%~90%未満 C：対計画実施率80%未満	計画的なスケジュール管理と予算を執行することができました。	A
II 対象者の視点 30%	【④顧客満足度】 事業実施後、顧客ニーズを把握し、事業を実施しているか？(顧客満足度の結果、顧客満足度調査の実施頻度など)	A：顧客満足度80%以上 B：顧客満足度60%から80% C：顧客満足度60%未満	事業実施後に事業報告会とアンケート調査を実施し、85%以上の方から参加して良かったとの回答を得ました。	A
	【⑤コスト】 顧客一人あたりにかけるコストはどのくらいか？(顧客一人あたりが負担するコストはどのくらいか？→評価指標は逆転)	A：対昨年度比、10%以上高い B：対昨年度比、0%~10%未満 C：対昨年度比、安い	宿泊施設やバス借上げなどが含まれるため、負担金については、1人17,000円となり、事業総額に占める個人負担の割合は、約30%となっています。	B
	【⑥時間】 顧客一人あたりにかける時間はどのくらいか？(顧客一人あたりが要する時間はどのくらいか？→評価指標は逆転)	A：対昨年度比削減率、10%以上 B：対昨年度比削減率、0%~10%未満 C：対昨年度比、増加	事前研修及び事後報告会並びに3日間の事業となるため、約24時間となります。	B
III 事業実施過程の視点 30%	【⑦ニーズの把握】 事業を導入する際、ニーズの把握を行ったか？(市民参画の割合など)	A：市民参画率20%以上 B：市民参画率 0%~20%未満 C：市民参画なし	事業内容については、関係者の意見や市民ニーズ及びアンケート調査の結果を参考に内容を決定しています。	A
	【⑧時間】 事業実施に伴う時間はどのくらいか？(打ち合わせ(会議)時間の短縮率(質の向上)、顧客の平均対応時間、情報の共有化など)	A：対昨年度比削減率、10%以上 B：対昨年度比削減率、0%~10%未満 C：対策年度比、増加	実行委員会を2回(約2時間)、保護者説明会1回(約1.5時間)、事前研修会1回(約1.5時間)、活動報告会1回(約1時間)と効率的な運営を実施しています。	B
	【⑨事業実施後の管理】 事業実施後の管理体制は確立しているか？(事業委託、民営化、市民参画団体への委譲後等の事業実施に対する管理体制)	A：管理体制確立、課題解決率10% B：管理体制確立、課題解決率0% C：管理体制確立せず	小学生が親元を離れ集団で生活するため、安全安心が優先されます。市内のまちづくりセンター、体育協会、体育指導委員などから組織する実行委員会での運営が望ましいと考えます。	A
IV 職員育成の視点 10%	【⑩業務改善】 業務の改善を行っているか？(業務の改善に関する提案件数の達成率、管理費(義務的経費は除く)のIT費用の割合など)	A：業務改善率、10%以上 B：業務改善率、0%~10%未満 C：業務改善なし	事業内容を決定する際、アンケート調査の要望や実行委員の意見を参考に業務の改善、見直しを行っています。	B
	【⑪研修】 事業を効果的に行うために、研修を行っているか？(研修時間、組織内の研修受講割合など)	A：対昨年度比研修時間、10%増 B：対昨年度比研修時間、5%増 C：対昨年度比研修時間、増減なし	事業を効果的に実施するため関係機関や団体と十分な連絡調整と安全に実施するために事前研修を行っています。	C
	【⑫技能向上】 資格の取得など、実務的な技能が向上したか。(資格取得、知識の共有化や結合化件数など)	A：対昨年度比、3件増 B：対昨年度比、1件増 C：対昨年度比、増加なし	事業を効果的に実施するため関係団体と連絡調整を図ることで、職員の交渉力が増えています。	C

4 自己評価結果 (Action)

総合評価	Aを10点、Bを7点、Cを5点とし、それぞれの項目の結果の合計に視点毎の割合をかけ(最高30点)、上記IからIVの視点による事業評価に基づく総合評価を行う。	点数	24.5	A：合計点が24点以上 B：合計点が21点~23点 C：合計点が20点以下	総合評価結果	A
本評価に基づく事業の改善策	現状	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 少子化が進む鹿嶋市において、複数の小学校に在籍する児童が集団生活をしながら、雪国でのさまざまな体験学習を行うことで、連帯感や自立心の向上につながりました。このことから、この事業は、有効な取り組みであると考えています。				
	課題	現状認識を踏まえた課題について記入してください。 学習の成果を期待するには、グループ別に指導することが効果的なため、30人と限定的な募集人数となっています。また、学習の効果をより高めるため、開催場所や事業内容等を調整する必要があります。				
	改善策	課題に対する改善策を、期限や具体的な数値などを記入してください。 開催場所及び事業内容については、実行委員や鹿嶋市体育協会・茨城県スキー連盟などの意見を参考にしながら、現地と連絡を取り合い、進めていきます。				